

# 富山市が進めるエゴマの6次産業化事業と温泉熱を活用した植物工場の整備

須沼 俊輔（すぬま しゅんすけ）富山市 環境部 環境政策課 主任

**要約** 富山市は、平成23年に全国11都市・地域の一つとして「環境未来都市」に選定された。本市が従来から進めてきた「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」を基本方針としつつ、環境未来都市として、超高齢化対策や産業振興、農業活性化、再生可能エネルギーの活用など、新たな切り口から複数のプロジェクトに取り組んでおり、その一環として進めているのが、「エゴマの6次産業化事業」である。地域特性である温泉熱を活用した全国に例のないエゴマの植物栽培工場を整備するとともに、同時に露地栽培の拡大も図りながら、エゴマの葉・実・油、それぞれを活かした一体的な6次産業化の推進に取り組んでいる。

## 1. はじめに

まず、今回「農業電化/6次産業化特集」のテーマのもと、私ども富山市の植物工場について紹介させていただく機会を頂けたことに感謝申し上げたい。今回紹介する本市の「牛岳温泉植物工場」は、薬用植物の一種である「エゴマ」の葉を生産する、全国的にも珍しい植物工場である。また、行政である富山市が、工場の整備から運営まで担っている点も特徴といえるであろう。それではなぜ本市がエゴマの植物工場に取り組むことになったのか、そして6次産業化としての展開について、その経緯を含め簡単に紹介したい。

なお、本記事は技術的な内容には深く触れないため、予めご了承ください。



図1 エゴマの葉（シソ科の一年草）

## 2. 環境未来都市

本市のエゴマ事業は、環境未来都市計画に位置付けて進めている取り組みである。この「環境未来都市」とは、平成22年に政府の新成長戦略に掲げる21の国家戦略プロジェクトの一つに位置付けられた政策で、環境だけではなく超高齢化対応や産業振興などといった面で先進的な取組事例を創出し、それらをモデルとして国内外に普及し、世界が抱える様々な課題解決に繋げることを究極の目的とした、大変壮大な構想である。

平成23年、この政策のもと国は、全国から先進モデルとして本市を含む11の都市・地域を「環境未来都市」として選定し、規制緩和や財政支援等の面で集中的にバックアップするとされたことから、本市は、選定を受け環境未来都市計画を策定し、15のプロジェクトを立ち上げた。

この中には、本市のまちづくりの基本方針である「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」に基づく、路面電車（LRT）のネットワーク化事業や、地域特性を生かした小水力などの再生可能エネルギー活用事業、江戸時代から300年以上の歴史を有する薬業の振興に資する事業など、様々なプロジェクトを位置付けており、その一つとして「エゴマの6次産業化事業」に取り組んでいる。